

【予稿集】

大学生のメディア利用に関する実態調査

徳武隼人*, 矢口博之**

*東京電機大学大学院 **東京電機大学

*19rmd26@ms.dendai.ac.jp **yaguchi@mail.dendai.ac.jp

大学生のメディア利用実態に関する知見を得ることを目的に、2019年11月から12月にかけて学生
の特性が異なる2つの大学においてwebによる調査票調査を実施し、818件の有効回答を得ることが
できた。調査により得られたデータを分析した結果、インターネットへのアクセス方法、スマートフ
ォンの利用、ニュースメディアの利用と信頼感、SNSの利用状況など、大学生のメディア利用実態の
一端を明らかにすることができたので、これを報告する。

A social survey of university students' use of information and communication media

Hayato TOKUTAKE*, Hiroyuki YAGUCHI**

*The Graduate School of Tokyo Denki University

**Tokyo Denki University

1. はじめに

日本ユニセフ協会「世界子供白書 2017 デジタル世界の子どもたち」[1]によると「インターネットに最もつながっているのは若者世代(15歳-24歳)であり、世界の若者世代の71%がインターネットに接続している」と報告されている。日本においても情報技術の急速な普及に伴い、SNSを始めとする新しい情報、コミュニケーションメディアであるデジタルメディアが台頭してきており、それに伴い大学生を取り巻くメディア環境も大きく変化していると考えられる。

そこで本研究では、大学生のメディアの利用実態に関する知見を得ることを目的として2019年の11月から12月にかけて学生
の特性が異なるT大学とS大学の2つの大学においてWebによる調査票調査を実施した。T大学は郊外型の理工系大学であり、S大学は都市型の文系を中心とする女子大学である。本稿ではこの大学生のメディア利用実態に関する調査の結果(紙面の都合でその一部)について報告する。

2. 調査の設計・実施

本調査はWebによる調査票調査として、2019年の11月から12月にかけて、専門科目である「社会調査実習Ⅱ」の一環として実施した。

調査票は全40問で構成されており、問1から問16は「利用しているメディア」について、問17から問20は「利用しているニュースメディア」について、問21から問23は「フェイクニュース」について、問24から問38は「友人とのコミュニケーションやSNS」についての質問である。問39は「自分の学年」、問40は「自分の家庭環境」に関するプロフィール項目とした。またweb調査票の構築と調査の実施には、Microsoft Office 365のwebアンケートシステムであるFormsを利用した。

調査対象としたT大学では学内のWeb掲示板で調査票へ誘導するリンクを示し、S大学では授業中に調査票へ誘導するQRコードが書かれたプリントを配布することで、調査協力依頼を行った。その結果、818件(内訳はT大学596件、S大学222件)の有効回答を得た。

3. 大学生のメディア利用調査結果の概要

3.1 情報メディアごとの利用状況

3.1.1 利用している情報メディアの種類

利用している情報メディアを複数回答で答えてもらった。その結果(図 1)、約 7 割の学生が「携帯電話、スマートフォン」「パソコン」などデジタルメディアを多く利用していることがわかった。その一方、「ラジオ」「固定電話」という回答は少なく、アナログメディアの利用が減少しつつある状況が伺える結果となった。しかし「テレビ(地デジ、BS、CS)」はおよそ半数の学生しか見ておらず、デジタルメディアであるにも係わらず利用が少ないメディアとなっている。

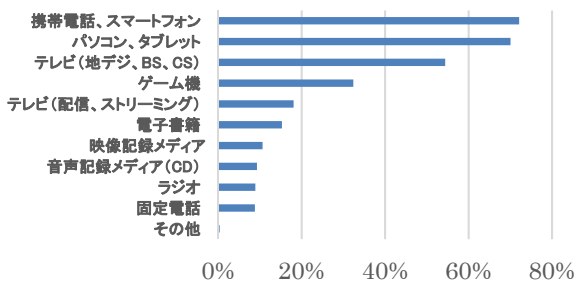


図 1. 大学生が利用しているメディア

3.1.2 インターネットアクセス機器

インターネットにアクセスした機器を複数回答で回答してもらった。その結果(図 2)、全員が何らかの方法でインターネットを利用しており、アクセス機器としては、大多数が「スマートフォン」と「パソコン」を使用していることがわかった。

T 大学と S 大学間でクロス集計(図 3)を行ったところ、「スマートフォン」についてはほぼ同率であったが、「パソコン」の利用率については、T 大学ではほとんどの学生が「パソコン」を使用してインターネットにアクセスしていたのに対し、S 大学では 2 割近くの学生が「パソコン」を使用していないことがわかった。

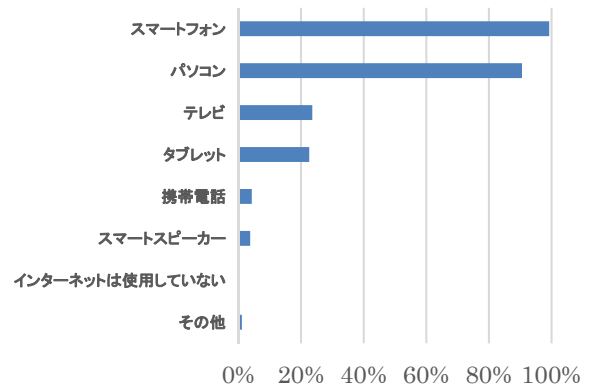


図 2. インターネットにアクセスした機器

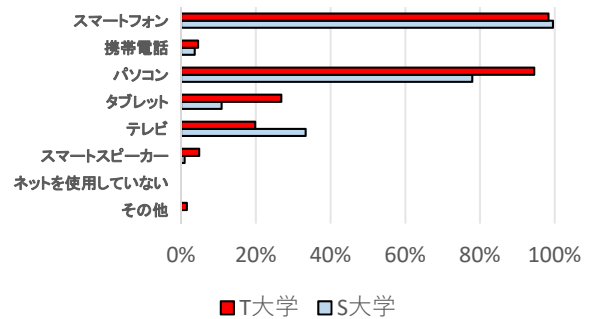


図 3. 図 2 の大学ごとのクロス集計

3.1.2 インターネットの使用用途

インターネットの使用用途を複数回答で答えてもらった。その結果(図 4)、96%の学生が「検索」の用途でインターネットを利用していることがわかった。また 88%の学生が「SNS、ブログ」を利用していることがわかった。

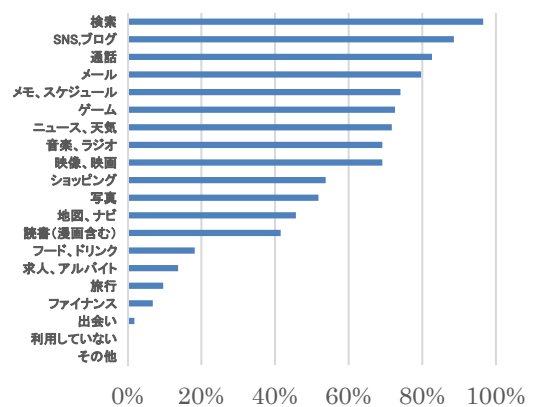


図 4. インターネットの使用用途

3.1.3 スマートフォンの月額使用料

主に使用しているスマートフォンの月額使用料について質問した。その結果(図 5)、使用料を把握している学生の中では、「3000 円以上～5000 円未満」を中心とする利用者が多いことがわかった。しかし最も多い回答は「わからない」の 38%であり、多くの学生が使用料金を気にせずにスマートフォンを使用している実態が明らかとなった。

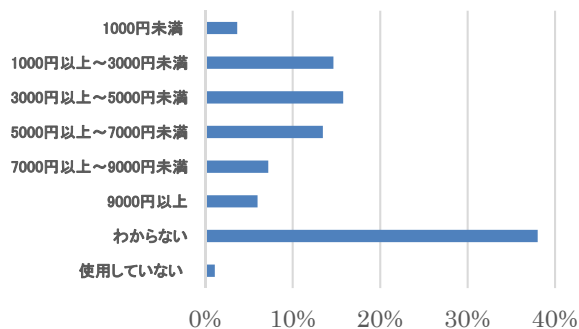


図 5. 主なスマートフォンの月額使用料

3.1.4 通学中に利用する情報メディア

通学中に最も利用する情報メディアを回答してもらった。その結果(図 6)、「音楽を聴く」が最も多く、「SNS を見る」、「ネットの情報を見る」という回答が続くことがわかった。ここで「新聞を読む」と回答した学生は 0 人であったことから、大学生にとって新聞は利便性の低いメディアと認識されているのではないかと推測される。

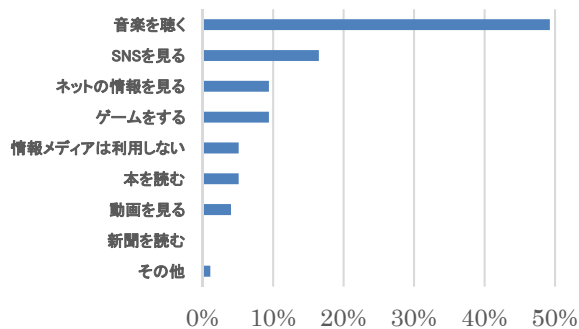


図 6. 通学中に利用した情報メディア

3.2 ニュースメディア

3.2.1 ニュースメディアの利用状況

利用したニュースメディアを複数回答で答えてもらった。その結果(図 7)、「インターネット(SNS、Web ページ)」が最も多く、2 番目は「インターネット(ニュースサイト、アプリ)」という回答であった。この結果は、ニュースサイト、アプリは能動的に利用するサービスであるのに対し、SNS は受動的なサービスであるというメディア特性の違いによるものではないかと推測している。

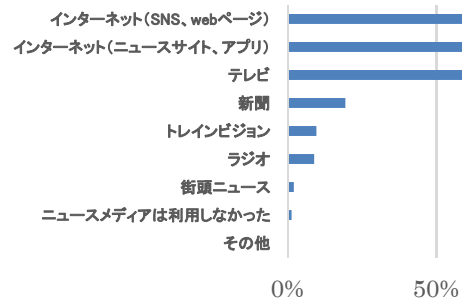


図 7. 利用したニュースメディア

3.2.2 利用したニュースサイト

ニュースサイトの利用状況について質問した。その結果(図 8)、最も多かったのは「意識せずに利用している」という回答で、全体の 32%であった。また意識的に利用しているニュースサイトの中では「Yahoo!ニュース」が最も多く、3.1.2 に示した結果と関連した結果であると推定している。

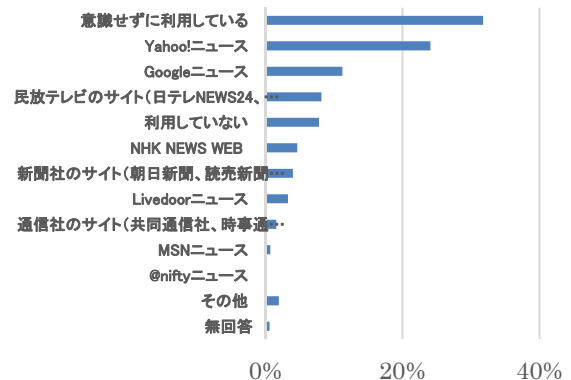


図 8. 利用したニュースサイト

3.2.3 ニュースメディアの信頼感

最も信頼性が高いと思うニュースメディアを答えてもらった。その結果(図 9)、最も多かったのは「何も信頼できない」という回答であった。信頼できるニュースメディアの中で最も多かったのは「NHK テレビ」という回答であった。

T 大学と S 大学を比べると(図 10)、T 大学では「何も信用できない」が最も多かったのに対し、S 大学では新聞やテレビ局の情報は信用できると答えた割合が多かった。

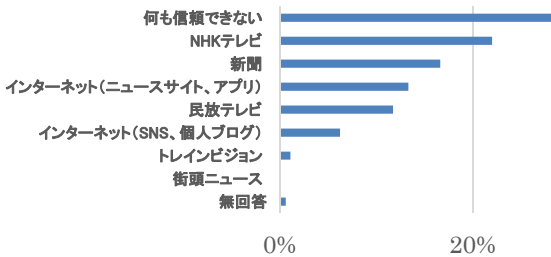


図 9. 信頼性が高いと思うニュースメディア

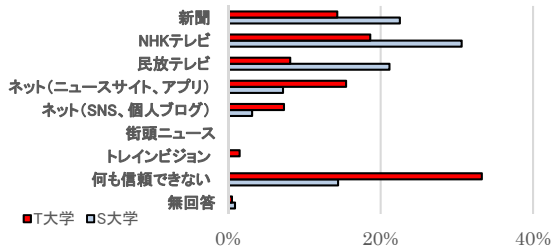


図 10. 図 9 の大学ごとのクロス集計

3.3 友人とのコミュニケーションメディア

3.3.1 コミュニケーションツールの利用状況

友人とのコミュニケーションに使用するツールを「スマートフォン、固定電話などの通話機能」、「LINE などの特定の人向け SNS」、「Twitter などの不特定多数向け SNS」、「年賀状(ハガキ)」、「手紙(年賀状以外)」の 5 つに対して順位付けをしてもらった。その結果(図 11)、1 位が「LINE などの特定の人向け SNS」で、2 位「スマートフォン、固定電話などの通話機能」であった。

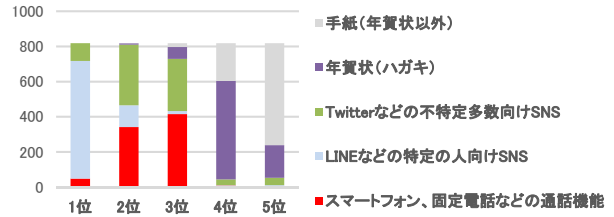


図 11. 使用しているコミュニケーションツール

3.2.3 SNS の利用状況

普段利用している SNS を複数回答で答えてもらった。その結果(図 12)、最も利用されているのは「LINE」であり、次は「Twitter」という結果であった。不特定多数向けである「Twitter」よりも特定の人向けの「LINE」の方が好まれている実態が見て取れる。

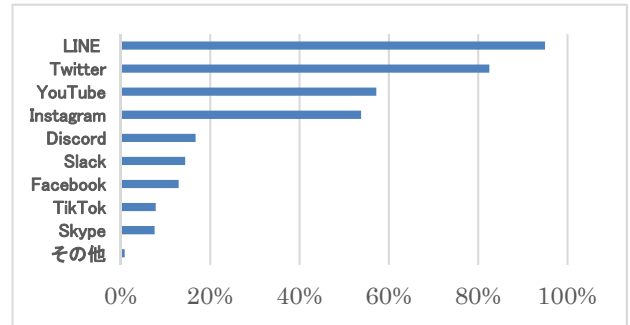


図 12. 普段利用している SNS

4. まとめ

本調査によれば、デジタルメディアの利用拡大に伴いアナログメディア利用が減少しつつある状況にあること。デジタルメディアの利用が多い反面、メディアリテラシーに欠ける点が見受けられるなど、大学生のメディア利用実態の一端が明らかとなった。今後は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、遠隔授業が増えている実態を踏まえ、引き続き調査を行っていきたいと考えている。

注・文献

- [1] “世界子供白書 2017 デジタル世界の子どもたち”. 日本ユニセフ協会
https://www.unicef.or.jp/sowc/pdf/UNICEF_SOWC_2017.pdf, (参照 2020-05-20).